

‘甘平’の裂果対策②断根・堆肥混和とマルチ

裂果軽減の前提条件となる少量多頻度灌水を実施したうえで、春季に断根処理すると、その年の裂果ピーク時の裂果が軽減し、タイベックシートで通年マルチすると、裂果が軽減した。

断根処理と堆肥混和



断根処理

【実施日】令和3年3月24～25日

【断根方法】
供試樹の列方向両サイドを樹冠幅の長さで断根。主幹からの距離30cm～60cmの30cm幅、深さ30cm。

【堆肥施用】
断根時に掘り出した土と、バーク堆肥(4袋/樹)を混和し、埋め戻した。

マルチ処理



マルチ処理

裸地(対照)

【マルチ設置】
令和3年5月6日に、タイベックシートを樹冠下に列処理し、通年被覆した。

【灌水】
両サイドに往復直線型で設置した点滴灌水チューブ(30cm間隔孔)で、30分/日灌水

断根・堆肥混和と裂果率(R3年産)

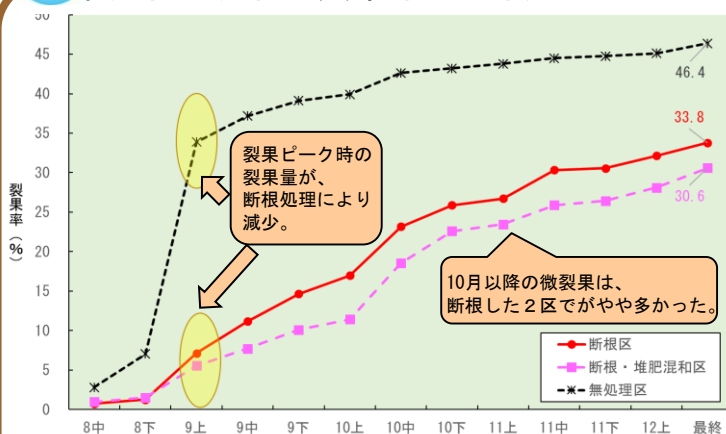


図1 断根処理と甘平の裂果率

断根処理した年の裂果ピーク時の裂果量は、断根処理により減少。

10月以降の微裂果は、断根2区でやや多く、総裂果量は、断根2区でやや少なかった(有意差なし)。

堆肥施用の効果は判然としなかった。

マルチ処理と裂果率(R3年産)

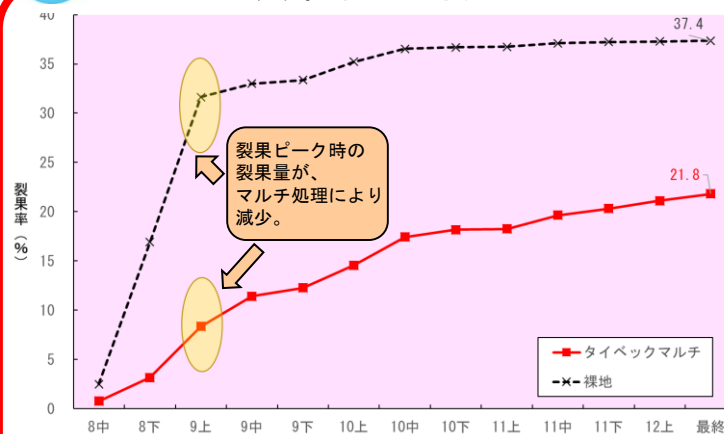


図2 マルチ処理と甘平の裂果率

通年タイベックマルチ処理により、裂果ピーク時の裂果量は減少。

有意差はなかったものの、総裂果量もタイベックマルチ区が裸地区より少なかった。

断根・堆肥混和と収量・果実品質(R3年産)

試験区	収量 (kg/m ²)	一果重 (g)	糖度 (°Brix)	クエン酸 (g/100ml)	果皮色 (a値)
断根区	3.5	216	14.3	1.29	15.6
断根・土壌混和区	3.3	194	14.3	1.44	16.0
無処理区	3.3	197	14.5	1.36	17.9
有意性 [※]	ns	ns	ns	ns	ns

※ 有意性:Tukeyの多重検定 ns有意差なし 調査日:2022.1.13

収量・果実品質について、有意な差はなかった。

裂果は気象条件に左右されるため、継続して検討する。

マルチ処理と収量・果実品質(R3年産)

試験区	収量 (kg/m ²)	一果重 (g)	糖度 (°Brix)	クエン酸 (g/100ml)	果皮色 (a値)
タイベックマルチ区	4.0	253	13.3	1.42	14.2
裸地区	3.0	204	14.1	1.46	14.2
有意性 [※]	ns	*	ns	ns	ns

※ 有意性:t検定 ns有意差なし *5%水準の有意差あり 調査日:2022.1.19

1果重はマルチ区で有意に大きかった。収量・果実品質に有意差はなかった。

裂果は気象条件に左右されるため、継続して検討する。